

復興支援フォーラムニュース No. 63

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

=====

<第60回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

さる3月18日、第60回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

今回は、今井照氏(福島大学教授)から、「自治体再建・原発避難と『移動する村』」をテーマに報告していただきました。41人が参加して、熱心な質疑応答がありましたが、以下のようなご意見等が、会場で提出されました。参考にしてください。

~~~~~

★ 「地域の未来は地域の人たちのみ決定できる」事が出来る保障を整備し、自治体が再建できる事を祈念しています。(Y.T)

★ 非常時の自治体の行政問題は、今までを総括することはもちろんですが、今後どうあるべきか、どうしていくのがよいのか、住民中心に十分に考慮して決定していくことを強く希望しています。(M.T)

★ まだ本を読ませていただいておりますが、とても分かりやすいお話でした。人ありきの自治体です。自治体サービスは人にするものだと思います。しかし、人は土地をもっています。複雑な問題だと思います。今後も声を出して行ってください。(A.T)

★ 震災、原発事故から3年。かなり早い段階から、住民票二重登録、仮の町を構想・提案されていた今井先生のお話、興味深く、お聞きしました。この3年は、自治体のあり方、行政のあり方を考えさせられる時間でもありました。今後の中間貯蔵施設用地の国有化の是非等、注目していきたいと思えます。(M.N)

★ 自治体を構成する「人」と「土地」の今後深められるべき論点をめぐりだしていただいた点、大きな意味を持つと感じた。その相互関係と将来展望をどうとらえるべきか?(S,M)

★ 原発事故による賠償(住居や生業を失ったことに対する)を、国の基金から一時的に立て替え、国から東電に求償する仕組みをつくるという提案は大いに賛成できる。(Y.S)

★ 第一原発周辺に立地する町村が、迅速に避難行動を実現された背景に、避難先の市町等との歴史的つながりがあったことが判りました。(著書の中で)(K.F)

★ 自治体の存在意義、住民との関係はどうあるべきかー著作から多くの問題提起を受け、生のお話により、少々、打開策が見えつつある気がしています。解の出しにくいテーマにもかかわらず、活発な質疑に励まされる思いがしました。(S.K)

★ 著書にまつわるエピソードではなく、内容そのものの解説を伺いたかった。誠意をもって皆さんの質問にお答えいただき、ありがとうございます。(T.O)

★ 数十年というスパンで、かつ、変化に応じながら、避難者を支えていくということは、とても難しいことではあるが、必要なことを支える法整備を早急に期待したい。(A.S)

★ 避難区域の住民に対する賠償は、広範囲に実施されています。精神的賠償はその一部にすぎません（財物も）。仮置場の実態を見れば、中間貯蔵施設の整備は先延ばしに出来ない問題です。フォーラムは2回目の参加ですが、行政職員には発言しにくい空気であることは残念です。（M.S）

★ 遅れて参加したため、今井先生の講話は、直接聞くことが出来ませんでした。質疑応答だけでも、かなり重く難しいやり取りが多かったです。こうした議論を積み重ねていくことは大変ですが、大切なことだと思いました。（K.A）

★ 中間貯蔵施設についてのやりとりがありました。アンケートで住民が受け入れているのは、やはりこの施設が必要であることを理解するからだだと思います。いわゆる迷惑施設とはちがうということですね。ただ、問題は、国がやるべき最終処分場についての構想を示さず、それを後回しにしていることにあると思います。そこをうやむやにして、最終処分場は県外に作る等と国が言っているのは、素人が考えてもおかしいと思います。最終処分場を30年とも40年ともいわれる子孫の仕事とするのではなく、中間貯蔵施設と同時に進めていってこそ、県民の理解が得られるのではないかと考えます。（K.S）

★ 「移住し続ける人間」を、単一の政策を提案するため、現行政、説明する側の者⇔説明される側の者、それらの対立と分断が続くなかで、受けとめるシステムを作り出す、発明することは可能なのか？それを議論する場は、どこにあるのか、など、興味深い話が続いた会であった。まとめの中間貯蔵施設の推移も参考になった。（T.S）

★ 「風評被害」という言葉で、避難している人が責められることのないように、避難している人には平等に賠償をしていくべきです。国策の責任。東電の責任を。「原発」は負の遺産です。再生エネルギーにシフトを。（S.Y）

=====  
第62回 ふくしま復興支援フォーラム  
2014年4月10日（木） 18時30分～20時30分  
針生達矢氏（労働基準監督官）  
「震災下の労働問題について」  
於）福島市アクティブシニアセンター「AOZ」大活動室1  
=====

第63回 ふくしま復興支援フォーラム  
2014年5月2日（金） 18時30分～20時30分  
渡部寛志氏（NPO法人「えひめ311」代表理事）  
「避難者から福島復興を考える」  
於）福島市アクティブシニアセンター「AOZ」大活動室1  
=====

第64回 ふくしま復興支援フォーラム  
2014年5月15日（木） 18時30分～20時30分  
松野光伸氏（福島大学名誉教授）  
「飯舘村は負けない ～復興の模索と課題～」  
於）福島市 市民活動サポートセンター（チェンバおおまち3F）  
=====

# 双葉町における被災の現状と復興への課題

双葉町長 伊澤史朗

## 双葉町の震災前の状況

### 双葉町役場の避難経路と役場機能

\* 双葉町民の都道府県別避難者数

|         |                  |
|---------|------------------|
| 避難者人数合計 | 6,871人           |
| < 福島県内  | 3,888人 (56.6%)   |
| 福島県外    | 2,983人 (43.4%) > |

## 双葉町の現在の状況

(放射線量に応じた警戒区域の見直し)

平成23年3月11日現在

帰還困難区域 (大字両竹、中野、中浜を除く) 2,524世帯 6,830人 (96%)

避難指示解除準備区域 (大字両竹、中野、中浜) 87世帯 292人 (4%)

(避難指示区域及び警戒区域の見直し) (平成25年5月28日 政府原子力災害対策本部決定)

## 東日本大震災の被害状況

### 応急仮設住宅での生活

\* 仮設住宅等の状況 (平成25年12月31日現在)

| (設置場所) | (団地数) | (設置戸数) | (入居戸数) | (入居人数) | (入居率%) |
|--------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 福島市    | 2     | 120戸   | 67戸    | 118人   | 55.8   |
| 郡山市    | 3     | 250    | 115    | 202    | 46.0   |
| 白河市    | 2     | 120    | 55     | 91     | 46.7   |
| いわき市   | 1     | 250    | 228    | 384    | 91.2   |
| 会津若松市  | 1     | 5      | 5      | 12     | 100.0  |
| 猪苗代町   | 1     | 10     | 6      | 15     | 60.0   |
| 合計     | 10    | 755    | 477    | 822    | 63.1   |

## 復興への取組み状況

### <ソフト事業>

- 双葉町復興まちづくり計画（第一次）（平成25年6月）を策定
  
- 平成25年度は双葉町復興まちづくり計画(第一次)に基づく事業計画(実施計画)を策定中
  - ・双葉町復興推進委員会において、第1期提言書を取りまとめ（平成26年2月5日）
    - ①町民のきずなの維持・発展について
    - ②双葉町外拠点におけるコミュニティ形成について
    - ③町民一人ひとりの生活再建について

### <ハード事業>

- インフラ復旧は、ほぼ未着手
  
- 除染
  
- 町立幼稚園、小中学校の再開

## 復興への取組みの主な課題①

### <帰還時期の見通し>

帰還困難区域(96%)、避難指示解除準備区域(4%)

(参考)双葉町住民意向調査の結果 (H25. 12. 6 公表)

## 復興への取組みの主な課題②

### <中間貯蔵施設>

施設建設の受入れ要請への判断

## 復興への取組みの主な課題③

### <コミュニティの分散>

町民は全国39都道府県、398市区町村等に分散